

自己点検・評価結果

データサイエンス・AI 入門プログラム(2022 年度以降入学者対象)

1. 自己点検・評価体制について

本プログラムは、本学全学教務委員会等により毎年の科目の状況等を自己点検し、改善を図っていくこととする。

2. 自己点検・評価体制における意見等

2-1. 学内からの視点

○プログラムの履修・修得状況、学修成果

単位の修得状況について、単位修得率は昨年度(初年度)と同等程度であり、不合格者数は減少した。4 年次での不合格者はこの科目に限らず、他の授業の不合格率も高い傾向にあるため、本科目に限らずサポートが必要であることが委員会において確認された。

また、本科目を開講した後、その他の情報系科目(「Python 演習」等)の履修者が増加傾向にあり、社会的ニーズとともに当該分野への興味・関心を高める一助として機能していると考えている。

○学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

「実践的な内容が多く学びが良かった」といった意見が寄せられ、学生からは一定の評価を得たといえる。一方で、補足資料やサポートの時間に関する要望があり、この点は検討を要する。

成績分布状況の分析によると、履修学生のうち 86.4%が単位を修得しており、上記のとおりこれは昨年度と同等である。一方で、昨年度は全体の 82%が高得点の S(90～100 点)もしくは A(80～89 点)評価で単位を修得していたが、今年度は 78.3%とやや数字が下がってしまった。依然として高い水準ではあるが、さらに学生の理解を促す工夫が必要と考える。

2-2. 学外からの視点

○教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

本プログラムを構成する「データサイエンス入門」は令和 5 年度から開講であるため、履修した学生はまだ卒業していない。本学では卒業時に進路調査を行っており、その調査を活用し修了者の進路等について評価を行う予定である。

以上